

ニッポン ドクター和の 臨終凶巻



東京で丸ビルといえば、丸の内
に立つおしゃれなビルをイメージ
するのでしようが、実はJR大阪
駅のそばにも丸ビルがありま
す。こちらは本当に円柱形のビル
で、高度成長期の大阪を象徴する
建物でした。電光掲示板ニュース
を日本で初めて流したことでよ
く知られています。

このビルを建設した元
大阪丸ビル会長の吉本
晴彦さんが5月30日に亡
くなっていったと報道され
ました。93歳。数年前に
転倒してからは歩行困難
になっていたものの、穏
やかな最期だったとい

19 吉本晴彦



大日本どけち教

長尾和宏（ながお・か
ずひろ）医学博士。東
京医大卒業後、大阪大兵
第二内科入局。1995年、大
阪府尼崎市で長尾クリニ
ックを開業。外来診療か
ら在宅医療まで「人を診
る」総合診療を目指す。
著「薬のやめどき」は「
痛くない死に方」は「い
づれもベストセラー。
関西国際大学客員教授。

ます。死因は老衰でした。

1923年、大阪・梅田の大地
主の息子として生まれました。3
歳のときに父親が、10歳のときに
母親が他界。その後、祖父に預け
られるものの、祖父もまもなく死
んでしまいます。

1954年に不動産会社を設

立。自らを「どけち」と名乗り、
1970年、『どけち人生』なる
自叙伝を出版。ベストセラーにな
ると、73年に「大日本どけち教」
を立ち上げ、「もったいない〜い」
と3回唱えると御利益があると広
めました。その独自のキャラクタ
ーで関西では一躍人気者となつた
のです。

で長生きしている傾向があると感
じているからです。
私の身内にも90代で現役塾講師
として毎日バイクで通勤、しかし
粗食で医者には一度もかかったこ
とがないという猛者がいます。日
中戦争が始まったのが1937年
ですから、混乱と貧困とともに少
年時代を生き抜いた世代です。

「ケチのケは経済のケ。チは知
恵のチ。ケチとシブチンは違う。
ケチは、無駄な金(死に金)は使
わないが、必要な金(生き金)は
惜しみなく使う」が持論でした。

東京医科歯科大学の藤原武男教
授らの研究グループは昨年、こん
な研究発表をしています。

私は、そんな生活習慣の吉本さ
んが93歳で老衰で亡くなられたと
いうことに注
目しました。

戦争を経験している高齢者の多
くはその後、成功し、お金持ちに
なったとしても、食べ物に対して
とてもストイックで必要以上のぜ
いたくはしないものです。好き嫌
いなく、なんでもありがたく食べ
る。そして腹八分目ですね。

健康長寿に至る食べ方とはこれ
に尽きるのではないのでしょうか。
戦争を知っている世代が、次々に
大往生を遂げていくこの頃。彼ら
の生き方を勉強し直し、『死に金
を使わなければ、健康で長生きで
きる』という本を書いてみよう
かと夢想する戦後72年目の夏で
す。

どけちに学ぶ長寿の秘訣